

報 告

## 貝塚山手地域における認知症への取り組み ～地域高齢者と本学学生のアンケート結果から～

### To Address Cognitive Decline in Kaizuka-Yamate -Based on the Results of and Questionnaire Survey of the Community Elderly and Our Students-

石川 健二<sup>1)</sup> 坂ノ上五十鈴<sup>2)</sup> 大屋 直美<sup>2)</sup> 貝田谷美子<sup>2)</sup>  
中村 早希<sup>2)</sup> 谷口 英治<sup>1)</sup>

**Abstract:** The Ministry of Health, Labour and Welfare provides education lecture for dementia supporter to the general public to promote understating of dementia as a part of community-comprehensive support and servicing. According to the Cabinet Office, the elderly has high interest in social activity participation, but rarely participates, and therefore support by citizen's participation does not follow. We interviewed Community General Support Center in Kaizuka-yamate staff members and conducted questionnaire survey to the elderly and to our students who attended an education lecture for dementia supporter. Community General Support Center staff said that while more people are strongly interested in their health, there are also cases where being homebound leads to behavioral and psychological symptoms of dementia that aggravate health problems. In addition a household that takes care of a demented tends to hide it from the neighbors, and some expressed the will to create an environment that encourages people to seek consultation. The goal of continuing the dementia educational campaign is to provide a community where the elderly can feel secure every day at a place they have lived, even if they were diagnosed as having dementia.

**Key Words:** Community General Support Center, education lecture for dementia supporter, Yamate Kaizuka City

**要 約：**厚生労働省により地域包括的な支援・サービス提供の一環として、一般の住民を対象に認知症の理解を目的とした認知症サポーター養成講座を実施している。内閣府の調査より高齢者は社会参加活動への関心は高いが、実際に参加することは少なく、住民参加による支援へと繋がっていないのが現状であるとしている。今回、山手地域包括支援センター職員に対する聞き取り調査や高齢者及び認知症サポーター養成講座を受講した本学学生へのアンケートを実施した。聞き取り調査から得られた結果として、健康に対する関心は以前より高くなってきている。しかし実際は、引きこもりによる周辺症状が現れ悪化してしまうケースもみられる。そのため若い世代が気軽に声を掛けてもらえるような交流促進につなげる活動を行っていききたいとしている。また、認知症を抱える家族が、近隣に知られないようにしようとする傾向があるので、相談しやすい環境をつくりたいとの意向であった。当センターとしては、今後も認知症予防啓発活動を行なうことにより、例え認知症を患ったとしても住

Kenji Ishikawa

E-mail : ishikawak@kawasakigakuen.ac.jp

- 1) 大阪河崎リハビリテーション大学  
リハビリテーション学部 作業療法学専攻
- 2) 貝塚山手地域包括支援センター

み慣れた場所で、高齢者が安心していつまでも暮らし続けることのできる地域づくりをめざしている。

キーワード：地域包括支援センター、認知症サポーター養成講座、貝塚市山手地域

## I. 諸言

厚生労働省は、地域包括ケアシステムの実現に向けて、団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えた「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援」を構築するための地域包括的な支援・サービス提供体制を推進している<sup>1)</sup>。その一環として、一般の住民を対象とした認知症の理解を目的とする認知症サポーター養成講座を実施しており、2015年で約600万人に達していると報告されている<sup>2)</sup>。そのため、認知症サポーターを中心とした自治会や特定非営利活動法人（以下NPO）が日常生活動作など認知症の支援に携わっている<sup>3)</sup>。しかし、内閣府の高齢者白書によると全国60歳以上の男女を対象とした「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」において、NPOが実施している活動への関心は高いが、実際に高齢者が活動へ参加することは少ないという結果であった。その理由として、活動の機会がもてないことや、NPO活動に関する情報が少ないなどであった。高齢者認知症対策をより一層推進していく必要があるにもかかわらず、住民参加による具体的な支援へと繋がっていないのが現状であるとしている<sup>4)</sup>。

地域において認知症を予防するための取り組みとは、日常での言動の異変に気づき、少しでも早い段階で無理なく周囲の者が相談できる環境を整える事が大切である。そのためには、地域の人々が、認知症に対する関心を持つとともに、理解しようとする機運を高めていく必要がある。

そこで、貝塚市の行っている高齢者福祉においては、以下のサービスが実施されている。配食サー

ビス、愛の一声運動、紙おむつ支援事業、緊急通報装置の設置、日常生活用具の給付、健康マッサージ事業、街角デイハウス等である<sup>5)</sup>。また地域包括支援センターからの支援としては、包括的継続的ケアマネジメント、権利擁護に関する支援、総合相談窓口、介護予防ケアマネジメント等である<sup>6)</sup>。

今回、本学学生が本大学の所在地である貝塚市の山手地域の現状に着目し、地域包括支援センター職員に対する聞き取り調査や認知症予防教室参加者へのアンケート調査及び、本学にて認知症サポーター養成講座を受講した学生に対する支援策に関わるアンケートを実施した。これらの結果を報告すると共に、今後の地域における認知症への取り組み及び、本学の地域への支援策について検討した。

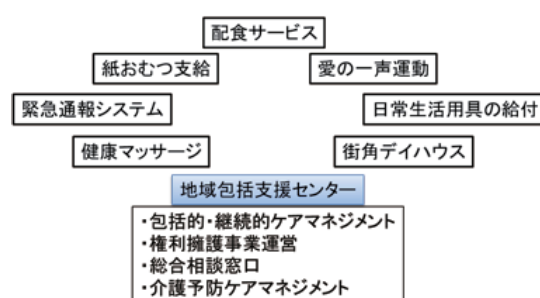


図1 貝塚市における高齢者福祉サービス

## II. 方法・結果

### 1. 健康教室参加者を対象とした調査

#### (1) 対象

本学主催の健康教室に参加した60歳以上の高齢者20名。

## (2) 内容

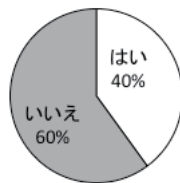
貝塚市による認知症予防啓発活動講座受講後、アンケートを実施した。(資料1)

なお調査について、本大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した<sup>7)</sup>。(承認番号 OKRU25-H212)

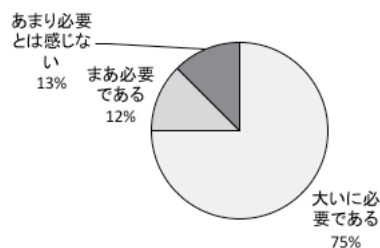
## (3) 結果

健康教室に参加された地域高齢者に対してのアンケート調査結果から、参加者のうち40%が認知症を抱えており、75%が認知症予防の啓発が必要であると回答している。しかし、認知症サポーターのボランティアを望まれた方は参加者の30%であった。

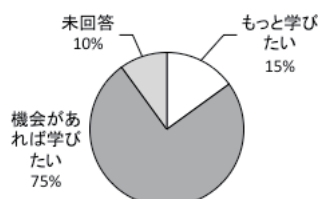
問1 あなたの周囲に認知症の人はいますか



問2 今後、認知症予防の啓発は必要であると感じますか



問3 この講座を聞いて認知症について知りくなりましたか



問4 認知症サポーターのボランティアを望めますか

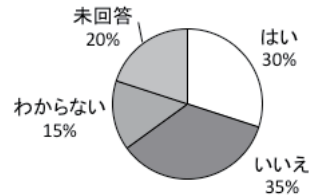


図2 健康教室に参加された地域高齢者に対してのアンケート調査結果

## 2. 本学学生を対象とした調査

### (1) 対象

本学作業療法学専攻3年生31名(男性14名、女性17名)

### (2) 内容

山手地域包括支援センターが主催する認知症サポーター養成講座受講後、学生にアンケート(資料2)を実施。方法①の高齢者アンケート調査から得られた結果と本学学生の意識を比較した。また山手地域包括支援センター職員(介護支援専門員、社会福祉士、看護師)に対して聞き取り調査を実施した。なお本調査は、本学倫理審査委員会の承認を得ている<sup>8)</sup>。(OKRU26-B214)

～認知症サポーター養成講座の内容(約90分)～

i) 認知症を学び地域で支えよう(DVD上映)  
・公園で女の子2人が話しをしている際に、認知症のおじいさんが道に迷っているのに気付いて声をかける場面の設定である。認知症の方に話しかける際の配慮点として、1人で前から行い、視線を合わせるなどを伝えていた。

・コンビニに訪れた認知症のおばあさんが、支払いの計算ができずに困ってしまう場面設定である。店員の対応として、やさしく丁寧な言葉遣いで威圧的にならない。小銭を一度すべて財布から出してもらい目の前で一緒に計算して精

算するなど配慮する。

・認知症のおばあさんが、地域のごみ出しの曜日を間違えてしまい、近隣の人から注意を受ける場面である。過ちを非難するのではなく、ごみの出し方を説明したうえで、ごみの日は声を掛けるなど近隣サポートの大切さを説く内容である。

## ii) 認知症の基礎知識

認知症を引き起こす原因疾患や記憶、見当識などの中核症状から引き起こされるうつ状態、徘徊などの周辺症状について話される。

## iii) パネルシアター

散歩の途中で道に迷ってしまった認知症のおじいさんとその家族、家まで送り届ける親子、おじいさんの友達といった登場人物5人が、スライドに合わせて朗読する。認知症の方の立場になった考え方、家族の気持ち、送り届ける親子の立場になった時の対応の仕方を伝える内容である。

## iv) 京都での認知症事例

実際にあった事例を紹介。認知症の母親を介護していた息子が生活苦に陥り、生活保護が受けられず退職金もなくなり、母親の首を絞め殺害する。息子も首を切り心中するも、河川敷で倒れているところを発見され一命をとりとめた事件。事例を通じて、どのような気持ちになるかを考えさせる内容である。

## v) 講話

・認知症による事故の賠償請求や家族による介護放棄など虐待問題、地域での行方不明者の状況等。

・貝塚市認知症の取り組みについての説明（徘徊高齢者見守りネットワーク、認知症疾患医療センター認知症カフェの活動）

・認知症サポーターとは特別なことをすることではなく、認知症のことを正しく理解し、声掛けなど暮らしやすい地域づくりのサポートをすることを説明。

## 結果②

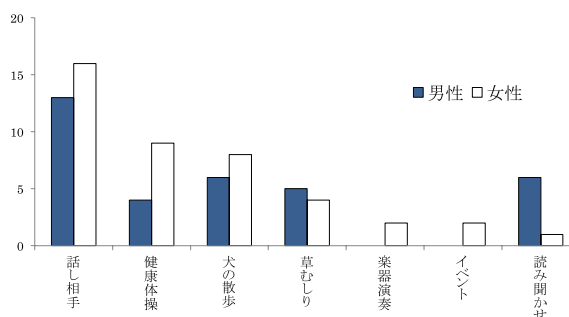
本学学生のアンケート調査より女子の方がボランティアの経験人数、ボランティアの内容ともに多かった。ボランティアの経験をした事のある人数は男性7名、女性16名であった。具体的な内容を調べると男性はデイケアでのボランティア、家事支援、女性は多くの内容が記載されており、その一部としてイベントボランティアや小児施設、デイケア、地域のボランティアに参加したことがあるという結果であった。

表1 ボランティア経験有と回答した男女別の内容

性別・人数	内容
男性・7名	施設デイケアでのボランティア 家事援助（買い物等）
女性・16名	・イベントボランティア ・スポーツによる交流・国際交流会・介護施設での行事（夏祭り等） ・障害のある子供と触れ合い活動 小児施設でのボランティア ・施設デイケアでのボランティア その他地域のボランティア活動等

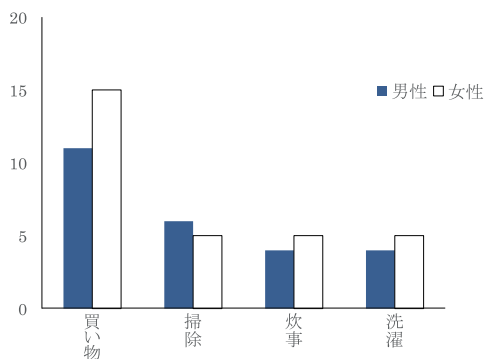
認知症サポーターとしてどのような役割を担えるか？との問いでは、認知症の方へボランティアをする支援策の内容として、趣味や余暇活動では、話し相手、健康体操、散歩といった支援策は女性の方が多かった。また、家事動作への支援、介助支援では全体的には大きな男女差はみられなかったが、特に買い物や外出付き添いといった支援策が目立っていた。

問1 趣味や余暇活動への支援 n=31



問2 家事動作への支援

n=31

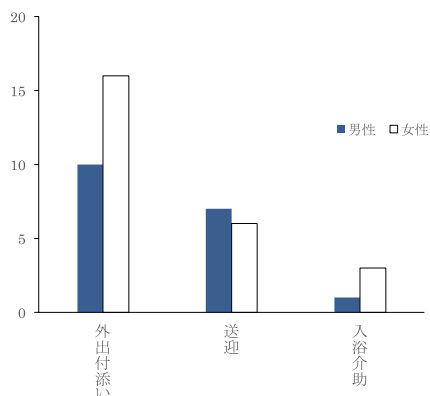


その他自由記載内容

- ・公共交通機関の利用
- ・買い物に一緒に行きお金の管理を行う

問3 介助支援

n=31



その他自由記載

- ・道に迷っている様子があれば尋ねる
- ・楽しんでもらいたい

図3 本学学生のアンケート調査結果

次に、本学学生と地域住民との講座を受講して感じたことを比較してみると、地域住民は、啓発活動をしてもらう、本人の予防策といった記載内容が多かった。本学学生は、認知症の方に対し自分達が取り組もうとする意識や今後の関わりに対しての記載内容が多かった。

表2 本学学生と地域住民との比較  
講座を受講して感じた事（自由記載）

<p>地域住民 60 歳以上高齢者 20 名 (本学学生の研究成果報告書より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症についてもっと知りたい(他 18 名)</li> <li>・認知症サポーターのボランティアを望む(他 5 名)</li> <li>・社会の一人一人が認知症の理解を啓発することによって、少しでも認知症が少なくなるようにと思っている。</li> <li>・認知症にできるだけならないよう対策を知っておきたいから。(他 4 名)</li> </ul>
<p>本学学生 3 年作業療法学専攻 31 名 (男性 14 名、女性 17 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症への支援策に意欲があると回答。(全員)</li> <li>・認知症で苦しむ本人さんや家族さんが追いつめられる前にお手伝いできたらいいいと思った。(他 2 名)</li> <li>・自分が生活時に高齢者の方に出会い、困っていることがあれば笑顔で相手の気持ちを考えて行動したいと思った。</li> </ul>

○地域包括支援センターからの聞き取り調査

問1. 認知症予防に関する業務内容はどのようなものですか

答) 認知症サポーター養成講座や健康教室(介護予防、転倒予防、栄養改善、口腔機能向上等)を年間に 50 回程度を実施している。また電話で悩み事相談や健康福祉について聞き取り調査及び高齢者徘徊見守りネットワークとして、認知症高齢者の行方不明者の早期発見・保護に努める仕組みにも関与している。

問2. 認知症に関する電話相談はどのような内容ですか

答) 認知症と思われる周辺症状(徘徊・虐待・暴言・暴力等)への対応について家族からの問い合わせが多い。

問3. 認知症の方を介護しているのはどのような人が多いですか

答) 家族の介護だけでなく、徘徊など屋外での見守りでは近隣の方々による対応も徐々に増えてきている。

問4. 認知症の相談とはどのような内容ですか

答) 毎年徐々に増加しており、なかでも認知症



の方に対しての暴力や言葉、経済的虐待などの相談が目立ってきている。

問5. 認知症のボランティアはどのような内容ですか

答) 認知症について考えるだけでも、意識するだけでもいいので、外出先で困っている高齢者に気軽に声掛けすることもボランティアであるとしている。

問6. 地域における認知症対策の課題とは

答) 健康教室の参加者は健康や認知症への関心が高い方が多いが、参加されず家で引きこもっている方が未だ地域に潜在している。そのような方に教室へ参加してもらえよう、地域の人たちと共に呼びかけを行っている。また周辺症状が現れているにもかかわらず、受診されないまま悪化してしまうケースもある。本人や家族が認知症と認めたくない為か、当センターへ相談することがほとんど無く情報が得られ難い。

○認知症サポーター養成講座について

問1: 認知症サポーター養成講座はどのような場所でされていますか?

答) 地区の集会所や公民館などで実施している。

問2: 認知症サポーターを受講する方の年齢は何歳代が多いですか?

答) 学生から中高年といった若い方の参加者も増えてきているが、主に65歳以上の方が多い。今後は若い世代にも認知症を知ってもらい、高齢者に気軽に声を掛けてもらえるような交流促進につなげる活動を行っていきたい。

### Ⅲ. 考察

内閣府 高齢社会白書では、高齢者自身が社会における役割をみだし、生きがいをもって積極的に社会に参加できるよう、各地域において社会環境の整備に努めることが重要であると

している。社会活動に参加している高齢者は生きがいを感じており、特に近隣との交流を増すことが、社会に対する関心が高まる。逆に社会活動に参加していない高齢者は、時間的・精神的ゆとりがないことや健康上の理由であるとしている。また地域住民の認知症の人との関わりでは、認知症の知識やボランティア活動の経験が影響するといわれている<sup>4)</sup>。

健康教室に参加された地域高齢者に対してのアンケート調査によると、知識を得たい反面、活動への参加には消極的な意見が目立った。また“今後、認知症予防の啓発は必要であると感じるか”との質問に対し、必要であると答えた人は半数以上いたのにもかかわらず、“認知症サポーターのボランティアを望まれるか”との質問に対しては、半数以下になっていた。認知症の方を見守る事が大変な事と理解しているため安易にボランティアをするとはいえない現状であるともいえる。高齢者からすると、自身が認知症の徴候があり不安であることや、認知症の家族を介護するためといった切実な問題を抱えているという理由から、教室に参加されていたと考えられる。

一方、本学学生に対してのアンケート結果から、女子学生の方がボランティア経験豊富であり、支援策として趣味や余暇活動が多かった。その理由として、話し相手や外出付き添いを支援策とする者が多いことから、学生が比較的対応しやすいと考える支援策であったからであろう。また、ほかにも“道に迷っている様子があれば尋ねる”との回答も多かったことから、本学生の認知症への関心の高さが伺えた。

山手地域包括支援センターでは、地域の連携をより一層広げてゆくための活動に取り組んでいるが、未だ認知症の家族はオープンに話すことができない実情を抱えている。地域包括支援センターの役割として、認知症に関する情報を一件でも多く寄せてもらいたいとの要望を訴え

ている。というのも認知症を抱える家族が、近隣や周囲に知られないようにしようとする傾向があるので、より相談しやすい環境をつくりたいとの意向であった。そのため、電話での窓口を設置し、気軽に認知症の家族が話しやすい場面づくりを設定している。なお本年より小規模であるが、認知症を対象とした地域密着型デイサービスを開設している。利用者にとって居心地の良い場となるように、スタッフによる極め細かな対応を行っている。また介護者のレスパイトになり少しでも生活にゆとりが生まれ、介護負担の軽減につながると考えている。

このように認知症予防啓発活動を行なうことにより、健康教室に参加せずに家で引きこもっている方や関心の無い方に対して、個別に在宅へ訪問すると共に地域住民からも呼びかけを行ってもらう等、様々な手段により顔の見える関係になれるように努めている。そして、例えば認知症を患ったとしても住み慣れた場所で、高齢者が安心していつまでも暮らし続けることのできる地域づくりをめざしている。

最後にアンケートから、本学学生が考える認知症に対する様々な支援策の提案がなされた。今後、本学として学生が地域の包括的支援策について学べる教育研修体制の充実をはかると共に、学生がボランティアとして活躍できる臨床現場との連携を強化するための方策をみつけていきたいと考える。

## 謝辞

今回ご協力いただいた貝塚市健康福祉部高齢介護課、及びアンケートにご協力頂いた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

## [引用文献]

- 1) 厚生労働省 HP 地域包括システム [http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu). (閲覧日 2015 年 10 月 2 日)
- 2) 地域ケア政策ネットワーク HP 認知症を知り地域を作る認知症サポーターキャラバン <http://www.caravanmate.com>. (閲覧日 2015 年 10 月 2 日)
- 3) 総務省 HP 統計局統計トピック <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi630.html>. (閲覧日 2015 年 10 月 2 日)
- 4) 内閣府 高齢社会白書 p53-54,p127-130.2007.
- 5) 貝塚市健康福祉部高齢介護課編、高齢者福祉のしおり .2014.
- 6) 貝塚市健康福祉部高齢介護課編、いつまでも元気な暮らしを介護保険 .2014.
- 7) 村中嵯央史 貝塚市における認知症予防啓発活動の取り組みについて 大阪河崎リハビリテーション大学紀要卒業論文 .2013.
- 8) 田村和久 本学学生が考える認知症への支援策および住民意識の相違 大阪河崎リハビリテーション大学紀要卒業論文 .2014.

— アンケートにご協力下さい —

このアンケート結果は、本学業務・研究に活用させていただきます

「認知症予防の取り組み」に参加された方へ、無記名式のアンケートにお答え下さい。

○あなたの性別は何ですか？                      男性      ・ 女性

今回の講座に参加して率直に感じたところをお書きください。

○あなたの周囲に認知症の人はいますか？      はい                      ・ いいえ

そのことであなたが困ることがあれば、簡単にお書きください

・ 姉が施設に入っております

○この講座を聞いて認知症についてより知りたくなりましたか？

・ もっと学びたい                      ・ 機会があれば学びたい

・ あまり興味ない

○「学びたい」を選ばれた方のうち、その理由は？

○今後、認知症予防の啓発は必要であると感じますか？

・ 大いに必要である      ・ まあ必要である      ・ あまり必要とは思わない

○認知症予防の啓発はなぜ必要であると考えますか？

○この講座を聞いた感想をお書きください

○認知症サポーターのボランティアを望まれますか？

・ はい                      ・ いいえ                      ・ わからない

**アンケートにお答え頂きありがとうございました。**

大阪河崎リハビリテーション大学 健康教室

— 「認知症サポーター養成講座」アンケートにご協力ください —

このアンケート結果は、本学業務・研究に活用させていただきます。

■各設問について対して該当する項目に○印を、括弧内にはご自由にお書きください。

1. あなたの性別は何ですか？                      ・ 男性                      ・ 女性

2. 今までにボランティアの経験はありますか？その場所はどこですか？

・ はい（・ 住み慣れた場所      ・ 遠方                      ・ その他）                      ・ いいえ

はいの方にお聞きします。どのようなボランティアをしましたか？

3. 認知症サポーターとしてどのような役割を担えると思いますか？（複数回答可）

**家事動作への支援**

・ 掃除                      ・ 炊事                      ・ 洗濯                      ・ 買い物

・ その他 { }

**趣味や余暇活動への支援**

・ ペットの散歩                      ・ 健康体操                      ・ 庭の草取り                      ・ 話し相手になる

・ 新聞や本などを読む                      ・ 楽器を演奏する                      ・ イベントを開催する

・ その他 { }

**介助支援**

・ 送迎                      ・ 入浴介助                      ・ 外出付き添い

・ その他 { }

上記の以外にも出来る支援があればご記入ください。

4. 本講座を受講して感じた事をご記入ください。

※ご協力いただき有難うございました。